情報 File

ビデオ「20世紀　日本の気象災害」第42回科学技術映像祭・文部科学大臣賞受賞

このビデオ「20世紀　日本の気象災害」は，財団法人日本気象協会が創立50周年を記念して企画，株式会社日本映画新社が製作したもので,「第42回科学技術映像祭」((財)日本科学技術振興財団，(財)日本科学映像協会，(社)映像文化製作者連盟，(財)つくば科学万博記念財団の主催）においてポピュラーサイエンス部門で文部科学大臣賞を受賞しました.

このビデオは気象災害を通して20世紀の文明とは何であったのかを問い直し，一貫した科学的な視点によって20世紀の日本を記録し，後世に伝えることを目的に企画しました.

日本の治水の原点となった淀川大洪水から始まり，室戸台風，東北の冷害，第２次大戦時の気象管制下での悲惨な気象災害，戦後の山野の荒廃の中を襲ったカスリン台風，昭和30年代の諫早大水害，伊勢湾台風，三八豪雪，昭和40年代の都市型水害の典型である大雨による急傾斜地の地すべり災害へと一気に描き，昭和50年代へと進んで，都市のコンクリート化・立体化による新たな水害のもつ意味を指摘します.

その一方，これら気象災害を明治の富国強兵以来の工業化や食料増産を指向した日本の国土開発の視点から光をあてます．そして，気象災害の原因を多角的に検証して，例えば，人口の大都市への集中がもたらした災害について示しています.

他方，20世紀において，明治の日本に導入された欧米の気象学，予報技術，観測機器，コンピュータ技術，および，予報業務体制の今日に至る発展の軌跡を，気象災害と対をなすように示し，更に，背景となる日本の激動の20世紀の出来事が気象災害との深い関わりをもつものとして提示されます.

最後に，20世紀文明が地球温暖化に象徴される地球全体の環境破壊につながり，21世紀において，あらたな気象の変質による異常気象，海面上昇，生態系の変化などさまざまな大災害の要因になる危険を孕んでおり，人類の英知を集めてこれに立ち向かわねばならないことを示しています.

この作品は，小倉義光氏が企画から完成に至る全ての段階に係わり，監修しました.

このビデオは,日本の防災に役立てていただくため，全国の地方自治体防災担当3300か所と，全国の公共図書館1900か所へ配布し，一般の方々の利用に供しています.

問い合わせ先

財団法人　日本気象協会　管理部
TEL：03-5958-8111
FAX：03-5958-8113
E-mail：yshimizu@jwa.or.jp